

2003北陸ポリテックビジョン in 富山

新潟県立新潟テクノスクール 本間 雅人

北陸地方では珍しく2月にもかかわらず好天に恵まれ、一足早く早春賦が聞こえるようななか開催された「2003北陸ポリテックビジョンin富山」をレポートした。

1日目は講演会を皮切りに、専門課程・応用課程の制作課題のうち選び抜かれたものが発表された。2日目は2会場を並行して講演・実演・競技が繰り広げられた。この訪問で私が関心深かったものをいくつか紹介する。



まず、専門課程の発表は、わずか2年弱の期間で身に付けた知識と技術を余すことなく課題に費やした努力がよくわかるものばかりだった。各展示ブースへ行き、「真空」チームと「とってもいいっす！」というユニークな車いすの作成チームの2つの課題発表者・作成者に話を聞くことができた。技術的な話を聞くと制作における工夫点や紆余曲折の道などよく説明してくれた。テクニカル面はもちろんだが、それよりも印象的だったのは早朝の青空のような気持ちのよい会話であった。

課題作成に向けた信念と一区切りついたという達成感、さらにやり残したことを今後の展望としているこ

とがよく伝わり、どこか新鮮であった。この新鮮な技術者の卵が社会へデビューし、今の志を忘れずに活躍してほしいと願わずにはいられなかった。



次に、応用課程では特に企業とタイアップした課題研究発表に釘付けとなった。夕方遅い時間のプログラムであったため、聴取は残念ながら少なかったが、有用な目的とそれに対する成果が発表された。

2日目のロボット競技は、各チーム万全の体制で臨んだはずなのであるが、トラブルや珍事が会場を湧かせた。一方、優勝ロボットの機敏な動作とすばらしい性能は、会場をため息と喝采でいっぱいにした。

複数の校が1カ所に集まってこのようなイベントを開催することは、時間や労力がかかり面倒なこともあるだろう。しかし、この機会に隣でどのようなことを行っているのか気になることが結果として切磋琢磨になり、技術のますますの発展とよりよい教材や課題テーマの選定につながると確信できた。開催地の富山県の関係者はもとより、日ごろから指導されている教官のご苦勞あつての成功に皆さまへの敬意を表したいと思います。このポリテックビジョンがこれからも伝統的に引き継がれ、学生の躍進に大きく貢献することを期待いたします。